

鑑賞距離からみた野外彫刻設置空間の適正規模について

山口大学 正 田 村 洋 一
山口大学 正 中 園 眞 人
ニュージェック 正 ○ 今 北 勝 也

1. はじめに

近年、多くの都市で市街地に彫刻やモニュメントが設置されるようになってきたが、中には設置場所とアンバランスを生じたり、設置空間の規模・環境に適切性を欠くケースも少なからず見受けられる。この原因の一つとして、彫刻やモニュメントの内容や規模・形態に応じて、その設置場所が満たすべき条件が十分明確にされていないことが指摘できる。このような認識から、本研究は、彫刻・モニュメント等の設置空間規模について、鑑賞距離の観点からアンケート調査にもとづいて基礎的な分析と検討を行ったものである。

2. 彫刻の鑑賞距離に対する意識調査

調査対象として宇部市内の野外設置彫刻 82 体の中から、表 1 に示す 17 体を選出した。これらを異なった距離から撮影した組写真(写真 1)を作成し、アンケート協力者に、その彫刻を鑑賞する場合、どの写真に示される位置が好ましいかを順位付けした回答を求めた。同時に、各彫刻に対する知悉度、好感度、現在の設置場所の適切性に関する質問も行った。

表 1 分析対象野外彫刻

No	内容	方向性	サイズ (cm)			評価意識 (図 3)	
			高さ	幅	奥行	好感度	設置場所
1	抽象	全方向	140	160	140	○	○
2	抽象	2方向	170	290	240	△	○
3	抽象	全方向	360	240	240	○	○
4	抽象	全方向	400	135	240	×	○
5	抽象	2方向	260	340	85	○	×
6	抽象	全方向	300	600	110	○	○
7	抽象	全方向	270	130	100	×	×
8	抽象	全方向	500	600	330	○	○
9	抽象	全方向	340	210	140	○	○
10	具象	1方向	250	96	76	○	○
11	具象	全方向	370	170	170	×	×
12	具象	全方向	202	70	77	○	○
13	具象	1方向	115	60	35	○	○
14	抽象	全方向	250	250	70	×	×
15	抽象	2方向	420	420	135	○	○
16	抽象	全方向	530	90	90	△	×
17	抽象	全方向	447	152	110	○	○

評価意識欄の記号の意味
 ○：図 1～3 で値が 2 以下の場合
 ×：図 1～3 で値が 2 以上の場合
 △：図 1～3 で値が 2 近傍の場合

調査協力者は、宇部市民 24 人(男性 9、女性 15)と大学生 30 人(全員男性)の計 54 人である。市民の年齢層は 38～77 歳で、23 名が宇部市居住年数 20 年以上である。学生は 21～24 歳で、27 人が居住年数 5 年以下である。なお、市民協力者は「宇部市ふるさとコンパニオン」に属しており、市内の彫刻に対する知悉度が高いメンバーである。

3. 調査結果

(1) 彫刻に対する好感度と設置場所の適切性

彫刻に対する好感度と設置場所の適切性に対する調査結果をまとめて図 1～3 に示す。座標値は各彫刻の

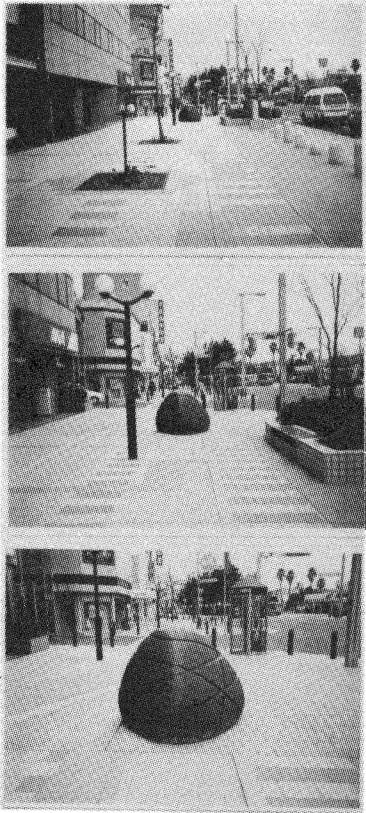


写真 1 鑑賞距離調査の組写真例 (No. 1)

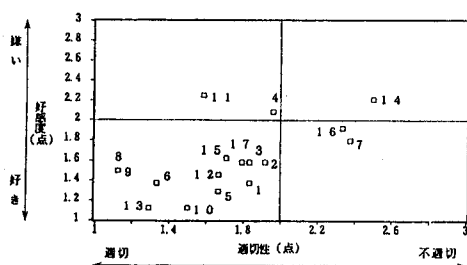


図1 彫刻に対する好感度と設置位置の適切性 (市民)

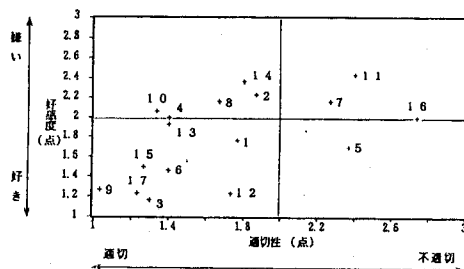


図2 彫刻に対する好感度と設置位置の適切性 (学生)

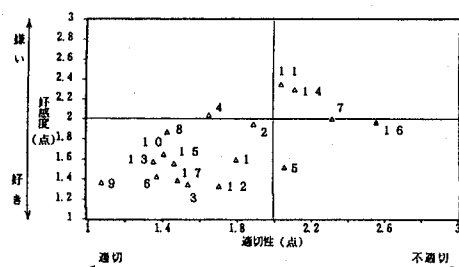


図3 彫刻に対する好感度と設置位置の適切性 (全体)

順位の平均値を示し、値が1に近いほど好感度、設置場所の適切性が高いと評価されていることを意味する。逆に、値が3に近いほど低い評価になる。

図中に示される4区画で、プロット点が左下の区画に含まれる彫刻は、好感度、設置場所のいずれにおいても問題がないが、左上区画のものは好感度に、右下区画のものは設置場所に、右上区画のものは好感度と設置場所の両面で問題があると評価される。

市民と学生の間で評価の程度に若干の差がみられるものの、好感度、設置場所の適切さの評価が著しく低いものはほぼ共通している。両者の結果をまとめて集計した図3をみれば、とくに問題がある彫刻として、No. 7, 11, 14, 16 があげられる(表1参照)。

(2) 鑑賞距離

彫刻の高さと鉛直方向視野高さ比(以下、鉛直空間比と呼ぶ)を横軸に、各写真の好感度順位を縦軸にとり、17彫刻に対する組写真での鑑賞距離に関する好感度順位の平均値をプロットしたのが図4である。これより、野外彫刻の鑑賞に必要な鉛直空間比は、およそ1.5~2.5であると判断できる。

ヘンリー・ドレイフェスの視覚に関する基礎データによれば、人間の鉛直方向視野はおおむね30度、水平方向の視野は60度と見なす。したがって、横

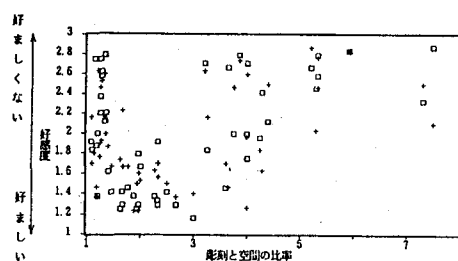


図4 好ましい鑑賞距離と鉛直空間比

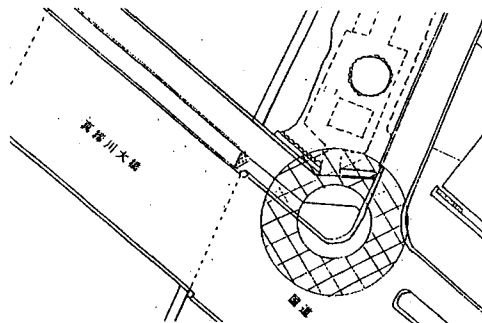


図5 鑑賞距離計算例 (No. 7)

幅よりも高さの方が大きな彫刻については、鉛直方向の視野を30度として、彫刻の高さとここで求めた鉛直空間比を用いれば、野外彫刻に対する鑑賞距離を算出することができる。

1例として、図5に彫刻No. 7に対する鉛直空間比1および1.5に対する鑑賞距離を示す。これより、この彫刻を好ましい視野条件で鑑賞できる範囲は、歩道上のごく狭い範囲に限定されていることがわかる。

4. おわりに

本研究で提案する方法により、彫刻設置場所に確保されるべき空間規模をある程度明らかにすることができた。しかし、意識調査に用いる写真の内容や提示方法等の点で問題も残されている。今後はさらに信頼性の高めるべく、調査方法に工夫を加えていきたい。